

京都経ヶ岬に 米軍基地

日米両政府は、京丹後市の航空自衛隊経ヶ岬分屯地に米軍専用のレーダー基地（Xバンドレーダー）を設置しようとしています。4月29日の日米防衛相会談では「早期配備を加速する」ことが確認されました。住民にまともな説明がないまま、武力対決を深める京都への米軍専用ミサイル基地の設置は絶対に認められません。

住民を危険にまきこむ
米軍専用
レーダー配備は
ストップを



Xバンドレーダー設置予定地を視察する府会議員団

北朝鮮の核ミサイル開発 軍事的対応でなく、 国際的世論で包囲を

北朝鮮の核ミサイル開発は絶対許せません。府知事は、経ヶ岬の米軍専用レーダー基地は北朝鮮の核ミサイル開発から防衛するために必要だとの答弁をおこないました。しかし、開発をやめさせるために何よりも大切なことは、道理に立った外交交渉に徹することです。この点では、軍事に頼らず交渉による「平和的安全保障」を実践しているASEAN（東南アジア諸国連合）に学ぶべきです。軍事的対応で挑発することは、絶対にやってはならないことです。

京都がアメリカの 核戦略の最前線基地に

ヘーゲル米国防長官は、Xバンドレーダー配備計画は「北朝鮮の長距離弾道ミサイルから米本土を防衛するためのもの」と明言しています。知事は、「日本の防衛システムと連動して、日本本土を守るための役割を果たすものであることを確認した」と述べていますが、「日本を守るため」という知事の説明とはまったくちがうものです。

しかも、アメリカのミサイル防衛構想は、アメリカを攻撃するミサイルを迎撃し、核搭載可能な弾道ミサイルで反撃するという戦略です。その最前線基地が、経ヶ岬につくられようとしているのです。

日本がアメリカの核戦争にまきこまれる危険をはらんだ、米軍専用レーダー基地の配備計画は、絶対に認められません。

ミサイル防衛構想は未完成の技術 国民をあざむくもの

米国のミサイル防衛構想は、アメリカが50年以上にわたって、ばく大なお金を投じて研究・開発している軍事技術です。しかし、ある軍事評論家が「(敵が発射した)ミサイルを撃ち落とせる確率は、5年続けて1億円の宝くじを当て続けるに等しい」と評するほど、いまだに成功していない未完成な技術です。

ミサイル防衛にたいする幻想を国民にいだかせ、さまざまな形で米軍基地を認めさせることは、国民をあざむくものにほかなりません。



経ヶ岬へ設置予定のXバンドレーダー

住民の安心・安全に対する 不安や疑問はつるばかり

防衛省は京丹後市や伊根町などで住民・自治体などに対する説明会を開きましたが、住民からは「米軍基地設置、軍関係者が常駐することで沖繩などで頻発している事故や事件はおこらないのか」「なぜ米本土を守るレーダーを京都に配備するのか」「強力な電磁波を発生するXバンドレーダー設置で健康上の問題は無いのか」などの不安や疑問が噴出しました。「防衛上の機密」という説明しかされなかったため、こうした不安や疑問は住民の間に広まっています。

防衛省は、同レーダーが配備されている青森県つがる市の車力（しゃりき）基地の例を持ち出し、「懸念される要因はない」と述べています。しかし、同基地を視察した住民の方々は、「車力基地は住宅地から3キロと遠く、経ヶ岬はわずか数百メートルと近い」と指摘しています。

車力の例を持ち出しても住民の安心・安全に対する不安や疑問は解消されません。住民無視で計画を進めることは絶対に許されません。

